



電気科学館プラネタリウムの スカイライン原画

資料登録番号
1994-1134

8月の科学館リニューアルで地下1階アトリウムに新たに登場したのが「ツアイス広場」(写真1)です。その真ん中にカールツアイスⅡ型プラネタリウムが置かれていますが、広場を取り囲む壁をよく見ると、街の夜景のパノラマ画が描かれています。実はこのパノラマ画は、カールツアイスⅡ型が現役で活躍していた大阪市立電気科学館のプラネタリウム投影の際に実際に使われていたものなのです。

プラネタリウム投影を見ると、その施設のある街の景色を映し出す演出が見られます。ドームをその地の空に見立て、地平線の近くに360度見渡したパノラマの映像を映し出すことにより、現地で星を見ている感覚を味わうことができます。プラネタリウム業界では、このパノラマのことを「スカイライン」とも呼んでいます。

さて、電気科学館では、開館から長らくスカイラインは金属板で作ったシルエットの風景を使っていましたが、1974(昭和49)年に、パノラマを写真スライドで投影する「スカイライン投影機」を新たに導入しました。この投影機には複数の画像を入れておくことができるので、大阪の風景だけでなく、例えば南極や月面に立った時の風景も映し出すことができ、演出の幅が広がりました。



写真2:パノラマ原画(部分)

写真をトレースして描かれています。ツアイス広場は、カフェスペースとなっていますので、ゆったりと眺めながら昭和のプラネタリウムの雰囲気味わってください。



写真1:ツアイス広場

今回ツアイス広場に描かれたパノラマ画は、1982(昭和57)年からプラネタリウムのスカイラインで使用された、四ツ橋から見た大阪の夜景で、その原画が科学館資料として保存されています(写真2)。長さ3メートルを超える長いもので、実際の風景

嘉数 次人(科学館学芸員)